様式第１１号（第１０条関係）**安全性確認チェックリスト**

新築住宅の場合は３項目以上、中古住宅の場合は２項目以上の、項目ごとに定められた基準の全てを満たす必要があります。

|  |  |
| --- | --- |
| 項目 | 基準 |
| 室内扉 | □ | （玄関からリビングまでの主要な扉に限る。）引き戸の場合は子どもの指をはさまないよう、１００ｍｍ程度の引き残しを確保する、又は自動でゆっくりと閉まる構造（ドアクローザー機能）のものとする。開き戸の場合はドアクローザー又はドアストッパーの機能付きのものとする。 |
| バルコニー | □ | （バルコニーがない場合は、当該基準を満たしているものとする。）１　転落を防止するために設置される手すりは次の構造のものとする。⑴　手すりの形状は子どもが容易によじ登れないよう、足がかりがない形状とする。⑵　腰壁その他足がかりとなるおそれのある部分（以下「腰壁等」という。）が生じる場合は、次の高さに達する手すりを設ける。ア　腰壁等の頂部と床面又は式台との距離のいずれか小さい方（以下「床面等との距離」という。）が６５０ｍｍ以上１，１００ｍｍ未満の場合は、床面等との距離が１，１００ｍｍ以上となるように設ける。イ　腰壁等の頂部と床面等との距離が３００ｍｍ以上６５０ｍｍ未満の場合は、腰壁等から８００ｍｍ以上の高さに達するように設ける。ウ　腰壁等の頂部と床面等との距離が３００ｍｍ未満の場合は、床面等との距離が１，１００ｍｍ以上となるように設ける。⑶　手すり子の相互の間隔は、床面及び腰壁（腰壁の高さが６５０ｍｍ未満の場合に限る。）からの高さが８００ｍｍ以内の部分に存するものについては、子どもの頭が入らないよう、内法寸法で１１０ｍｍ以下とする。⑷　手すりの最下部とバルコニー床面との間は、子どもの頭が入らないように、内法寸法で９０ｍｍ以下とする。２　室外機や資源用ゴミ箱等がバルコニーの手すりをよじ登る足がかりにならないよう、次のいずれかの転落防止策を講じる。⑴　バルコニーの手すりから６００ｍｍ以上の距離を確保した位置に指定の設置場所を確保する。⑵　バルコニーの手すりから適切な離隔距離による設置場所を確保できない場合は、室外機等を高さ９００ｍｍ以上の柵で囲う。 |
| 住戸内階段 | □ | （階段がない場合（平屋の場合）は、当該基準を満たしているものとする。）１　踏面及びけあげ等の寸法は次のようなものとする。⑴　勾配は２２／２１以下とする。⑵　けあげの寸法の２倍と踏面の寸法の和が５５０ｍｍ以上６５０ｍｍ以下であり、かつ踏面の寸法が１９５ｍｍ以上とする。⑶　蹴込みは３０ｍｍ以下とする。２　少なくとも片側に手すりを設置し、次の基準のものとする。⑴　手すりの高さは、踏面の先端から高さが７００ｍｍから９００ｍｍの位置とする。⑵　大人用と子ども用の２段手すりを設置する場合は、踏面の先端からの高さが上段は８５０ｍｍ程度、下段は６５０ｍｍ程度の位置とする。３　踏面に滑り防止のための部材を設ける。当該部材は踏面と同一面となるようにする。 |
| 浴室 | □ | １　浴室の出入り口部分に段差が生じる場合、その程度は次のいずれかとする。⑴　浴室内外の高低差が２０ｍｍ以下の単純段差とする。⑵　またぎ段差の場合は、浴室の内外の高低差は１２０ｍｍ以下とし、かつ浴室内の床からのまたぎの高低差は１８０ｍｍ以下とする。２　浴室のドアにはチャイルドロック（子どもの手が届きにくい高さに脱衣室側から施錠・解錠が出来る錠）を設置する。 |
| 敷地内 | □ | 監視の目を補完するため、防犯カメラ又はセンサーライトを設置する。 |
| インターホン | □ | 相手の顔や様子を確認できるよう、カメラ付きインターホンを設ける。 |